

巻頭言

公益社団法人 日本放射線技術学会
東北部会副会長 笠原 敏文

第4回東北放射線医療技術学術大会の開催に際しまして、皆様より多大なるご支援ご協力を賜りましたこと、心より御礼申し上げます。本大会は公益社団法人日本診療放射線技師会東北地域放射線技師会と公益社団法人日本放射線技術学会東北部会との合同で開催する学術大会として4回目の開催となり、参加総数491名と非常に多くの方にご来場いただきました。運営の面では、新潟県が技術学会においては東北部会に、技師会は北関東地域に属しているため変則的な運営となりましたが、一般社団法人新潟県診療放射線技師会の協力のもと、無事に開催することができました。

本大会は特に救急医療に焦点を当て、“今なすべきこと、次世代への架け橋”のテーマのもと、特別講演として救急医療の最前線でご活躍の富山大学附属病院 災害・救命センター長の奥寺敬先生より“チーム医療としての救急医療の現状と展開”と題して講演を賜りました。シンポジウムでは“救急医療の現状と未来”と題し、東北地域の救急医療の現場で奮闘されている3施設の現状を報告いただきました。続いて、りんくう総合医療センターの坂下恵治先生からは“救急医療における放射線技師の現状と課題”として、昭和大学大学院保健医療学研究科の加藤京一先生からは“救急医療に関しての現在そして今後の取り組みと技師会としての方向性－救急医療における読影補助の現状と展望－”として講演を賜りました。これからの診療放射線技師に課せられた使命と役割、そして今後の立ち位置を模索するため、学術団体である技術学会の立場、職能団体としての技師会の立場を考慮したシンポジウムといたしました。

テクニカルミーティングは今年度からMR、CT、核医学、放射線治療、撮影技術に医療情報を加えた6分野での開催となり、関わりの深い若手放射線技師を中心に報告をいただきました。それぞれのテーマは普段何気なく接している基本的なものとし、これを機に今一度初心に立ち返り、知識の整理をする機会となるよう企画いたしました。

市民公開講座は、“心を響かせる仕事の現場”と題して、頭髪治療の第一人者である佐藤明男先生より“脱毛症治療・最前線-放射線脱毛を含めた脱毛症全般について-”のご講演を賜りました。引き続き作曲家の茂野雅道先生に、佐藤先生を交え“映画音楽という世界-医療と音楽と心の関係-”を題材にトークセッションを行いました。「医療は患者の心を扱う仕事である」という側面から、異業種の“心を扱う仕事”に従事しているお二人に、医療と音楽に共通する「心」を扱うことの難しさ、尊さについて語っていただきました。

その他にも、日本診療放射線技師会企画として大会特別報告“福島県外における住民の個人被ばく線量把握について”を諸澄邦彦先生、新木佳友先生より、また、日本放射線技術学会企画として大会特別企画“放射線技術学のための研究の基礎”と題し、北海道大学大学院の小笠原克彦先生より研究の倫理に関連したご講演をいただきました。なお、一般研究発表には125演題もの報告をいただきました。この場をお借りして演者の皆様に心より感謝申し上げます。

本大会では、技術学会、技師会企画に加え、一般演題の増加に伴う発表会場の分散化等による会場の確保と時間配分に苦慮いたしました。大会の発展に伴う今後の課題であろうと思われませんが、早くも来年の山形県開催に思いを馳せております。今度は山形でお会いしましょう。